

2021/2/17

(うとQ世話し「多様性」前編)

「なので、多様性の尊重がこれからは、何よりも大切になります」

という話を聞いて、

「又、言ってらあ。大げさだ、わ」

という言葉が、つい口を突いて出てしまいました。

「それって、応用が利かないとか、融通が利かないとかのレベルの話じゃないの？」

今日お話しするのは、ジェンダー等々のレベルの話は含みません。

極めて日常的な事柄と、マスメディア等で使われている「何でもかんでもAIと宣伝するが如く「多様性という言葉」を使いたがる」事にかんしての話に限定致します。

それでは本題。

帝国大学法学部を出、その後海軍経理学校を出て、大手メーカーの家電事業部長迄した親父が、定年退職後、ビデオデッキの操作一つ出来ない事に驚きました。

その後、母が入院をした折り、ご飯を作れないことは知っておりましたが、洗濯機を使えない、暖めるだけの電子レンジも使えない事をして益々驚きました。

電子レンジなどは、親父が理解し易い様に、改めて多機能タイプから単機能に買い換えたほどです。

まず、一番目の話については、法学部出身ながら海軍経理学校を出たおかげで、スタッフ部門トップの総務系、即ち法学系とライン部門トップの事業部系、即ち経済、経営系の両方をオペレートできた為にかなり出世をしたようです。当時としては珍しく両刀遣いだったからです。

しかし、いずれも文系の分野での両刀遣い。文系(文書系)と理系(技術系)の両刀遣い(クロスオーバー)とまでは行かなかったようです。

次に二番目の話に就きましては、親父の息子である自分や弟、自分の息子達も、最低4年間は女手無しの一人暮らしをした経験がありますので、家事全般一通りは出来ますが、親父の世代は「男子厨房に入っている、べからず」の教育だったので、それらをする事は御法度(御法度)行為として退けられ、当然ながらそれを身につける事も出来なかった訳です。

要するに折角電機メーカーの「家電事業部」という機会があったのに、HA(ホームオートメーション)からAV(アダルトビデオではなくてオーディオ・ビジュアル。まあ、親父がアダルトビデオ分野に進出していたら、それこそ本物の「多様性」だったでしょうが)分野に、「男子厨房に入っている、べからず」から「どんどん入ってみよう」へと融通も応用へも視野が広がらなかった訳です。

でも、もしこれらを「多様性の欠如」というなら、より高次の話である「多様性」と言う言葉を「●●のカリスマ」「▲▲の達人」の様に手形乱発的に使っているに過ぎません。

単に「もったいないなあ」という程度の話で、融通性と応用力の無さから、今までに何回も繰り返されてきた「日常茶飯な機会損失」の話の一つに過ぎません。

この様に中身を丁寧に見てみると、大概がタイトルキャプションの付け方で、新規性を出しているだけの話で、単なるレトリック上の話にしかになっていない事が多い様な気が致します。

(後編へ続く)